

■金丸重嶺 **新興写真を代表する写真家。商業写真・広告写真分野の草分けで、写真評論家、写真教育者でもあった。**
かなまるしげね
ヒ7/国産化・1900＝ 東京市麻布区筈町で、佐賀鍋島藩士の子の国学者で宮内省宮内官金丸俊胤の長男に生まれる。母はトモ。

日露戦争終・1905＝ **5歳**：

韓国反日暴動1907＝ **7歳**：麻布区立筈小学校に入学、

伊藤博文暗殺1909＝ **9歳**：

明治天皇没・1912＝12歳：
大正政変・1913＝13歳：卒業し、私立正則中学校に入学。
21ヶ条要求・1915＝15歳：**義兄前島英男が、小川一真とともに宮内省写真部を設立した丸木利陽門下で、東京芝白金で写真館を経営していたことから、写真に興味をもち、前島写真館に出入りして、写真を始め、鈴木八郎と出会う。**

民本主義・1916＝16歳：父の転任に従い、福島中学に転校。山歩きの会をつくり、写真を活用し、水彩画の展覧会を行う。
本格政党内閣1918＝**18歳**：卒業し、東京に戻って、国学院に入学。**「鈴木八郎と写真の将来について語り合うようになり、**
ベル仁条約・1919＝19歳：母トモ死去。中退し、YMCA英語学校へ入学。宮田信義にマンドリンを習い、YMCA演奏会にたびたび出演。
大暴落・1920＝20歳：修了。東京通関株式会社に入社し、神田和泉町所長として勤務開始、
原敬首相暗殺1921＝21歳：
水平社結成・1922＝22歳：館サクと結婚。父俊胤死去。**「東京写真研究所の開設準備をはじめ、**
関東大震災・1923＝23歳：阿部貿易商会に転職。関東大震災により東京写真研究所開設準備を一時中断。
護憲三派圧勝1924＝24歳：退社し、**「{表現社}に所属。宇高久敬、鈴木八郎、南実らと、{東京商業写真研究会}結成。**
治安維持法・1925＝25歳：東京市神田区和泉町1番地1号にを開設、
円本時代始・1926＝26歳：前年に開設した{金丸写真研究所}を、***鈴木とともに、日本初の広告写真スタジオ{金鈴社コマーシャルスタジオ(以後、{金鈴社})}を設立し、薬品会社や美術雑誌からの依頼を受けて撮影をおこなう。**

金融恐慌・1927＝**27歳**：3年前に、**「杉浦非水が創立した商業美術同人会{七人社}の同人とり、その交流からクライアントが増加。**
共産党事件・1928＝28歳：{金鈴社}に藤本四八が入る。アルスの{現代商業美術全集14}として「広告用写真の製作法」を共著。
世界恐慌・1929＝29歳：**「鈴木八郎と離別して単独経営、この年設立された写真化学研究所(通称P.C.L.、東宝の前身)囑託となる。**
海軍軍縮条約1930＝30歳：{金鈴社}に椎橋勇が入る。この年刊行された**「武井武雄「日本郷土玩具」の挿絵写真を担当する一方、花王石鹸の社外囑託として、アート・ディレクター太田英茂のもと、新装{花王石鹸}のキャンペーン広告、**

満州事変・1931＝31歳：鈴木八郎との共著「商業写真術」(アルス)刊行。**「武井武雄の毎年誕生日に肖像写真撮影を開始。花王石鹸の広告撮影で木村伊兵衛と出会い、新装{花王石鹸}の新聞一面広告掲載。**

五一五事件・1932＝32歳：美術評論家仲田定之助の示唆で、玄光社より**「ヨーロッパの写真を紹介する「新興写真の作り方」を刊行。**
国際連盟脱退1933＝33歳：長女光子誕生。読売新聞に連載「涼み台」、以後、諸紙に連載。**「満州に撮影旅行し、銀座伊東屋で{金丸重嶺氏撮影1933年の新興満州国スナップ展}を開催。名取洋之助より{NIPPON}の契約カメラマンを依頼される。**

芥川直木賞始1935＝35歳：藤本四八が{金鈴社}を辞める。**「全日本写真連盟理事に就任、以後{アサヒカメラ}への執筆が増える。**
二二六事件・1936＝**36歳**：アルス最新写真大講座第13巻新興写真術として「商業写真の作り方」刊行。{わが家の防空}の写真担当。この頃から**「本格的に小型カメラのライカを使い始め、日本新聞写真連盟ベルリンオリンピック特派員として渡欧、五社連合より派遣された名取洋之助と出会い、報道合戦を繰り広げ、閉幕後、ヘルム・アーベルを訪ね、ヨーロッパ周遊して帰国。仙台・盛岡・青森で河北新報社主催{ベルリンオリンピック写真展}。**

日中戦争始・1937＝37歳：朝日新聞社より{アサヒカメラ叢書第17巻}として「海外作家五十人集」を刊行、日本橋三越で「渡欧記念作品 欧州民情写真展」を開催し、{滞欧作品集}が刊行され、江間章子の詩に写真をつけた「砂丘の女王」、

健保+総動員 1938＝38歳：椎橋勇が{金鈴社}を辞める。玄光社の写真実技大講座第7巻「商業写真の実技」を刊行。以後2年、東京写真専門学校講師を委嘱され、日本大学専門部芸術科の夏期写真講習会に出講。**「従軍カメラマンとして武漢侵攻作戦を取材し、アサヒカメラに「漢口攻略写真従軍日記」連載。{広告作家懇話会}が発足しメンバーに。**

第二次大戦始1939＝39歳：**「日本大学専門部芸術科写真科が設置され、初代主任に就任し、「Commercial Photograph」など講義ノート執筆、ヨーロッパの新興写真を基にした新しい写真表現を中心とした写真教育を始める。**

大政翼賛会・1940＝40歳：ニューヨーク万国博覧会国際館の日本部の山脇巖構成写真壁画「現代日本生活」制作に参加。
日米開戦・1941＝41歳：日本宣伝技術家協会常任理事。{写真文化}顧問。{中島飛行機パンフレット}の写真担当。
・1942＝42歳：日本橋三越での「国民生活科学化展」の企画編纂。
創価学会検挙1943＝43歳：東京有楽町の日本劇場壁面の合成写真大壁画「撃ちてしまむ」の原画撮影。日本大学専門部芸術科教授。
年金+総武装 1944＝44歳：芸術科が工科になる。{東亜写真工業} {国民運動研究会}顧問。{大日本写真報国会}常任理事指導部長。陸軍「強く耐へよ」移動展の企画、ボルネオ島日本文化展、大蔵省「戦争と戦費展」生活編の編纂をおこなう。

敗戦・1945＝**45歳**：日本大学専門部工科学監に就任。
新憲法公布・1946＝46歳：日本大学専門部工科(板橋工科)が廃止され、新設の日本大学専門部芸術科科長に就任。
極東裁判決・1948＝48歳：大学基準協会芸術教育基準分科会委員となり、芸術大学基準の基礎をつくる。
三大事件・1949＝49歳：**「新制の日本大学芸術学部教授となる。復刊{アサヒカメラ}の顧問的立場。中島健蔵らと{世界感覚の会}。**

独立回復・1951＝51歳：
TV放送始・1953＝53歳：**「社団法人日本写真協会より、写真功労者として表彰される。**
自衛隊発足 1954＝**54歳**：日本大学芸術学部学監。美学会委員。以後約2年ほど禁煙。
55年体制始・1955＝55歳：日本写真協会副会長。
国連加盟・1956＝56歳：**「文部大臣芸術選奨選考委員を依頼。{ザ・ファミリー・オブ・マンわれらみな人間家族}展の実行委員。**
なべ底不況 1957＝57歳：毎日新聞より滝口修造と共著「新しい写真の考え方」、「アサヒカメラ講座4：商業写真と特殊写真」刊行。
インスタントマン・1958＝58歳：***日本広告写真家協会(APA)初代会長に就任。アメリカ国務省「リーダーズ・プログラム」の招待により、ヨーロッパを経由しアメリカへ。ベルギー文部大臣より文化章を受け、国際芸術写真連合(FIAP)大会、第5回フオトキナなどに参加し、欧米の写真家たちと親交を結び、翌年帰国。**

安保闘争・1960＝60歳：日本放送協会(NHK)TV番組技術改善委員(没するまで)。**「朝日新聞社より写真界功労者として表彰。**
全国総合計画1962＝62歳：国際美術評論家連盟正会員。中川一政らと中東からヨーロッパ旅行。**「日本宣伝賞委員会より吉田秀雄賞。**
TV宇宙中継始1963＝**63歳**：**「日本大学学長(翌年まで)。**
東京リビヅカ 1964＝64歳：**「東京オリンピック大会芸術委員・写真展示委員長。中華民国摄影学会より榮譽会員に推戴。**
大学紛争始・1965＝65歳：全日本写真連盟副会長。**「韓国ソラボル芸術大学の写真学科設立に尽力し、韓国写真協会名誉会員に推戴。**
いざなぎ景気1966＝66歳：辞任し、日本大学芸術学部次長(以後3年)。**「{アジア写真芸術連盟(FAPA)}結成のため台湾訪問、副会長。**
震ヶ関ビル・1968＝68歳：**「日本大学で学園紛争が始まり、過労から入院。文部大臣芸術選奨選考委員を辞め、**
全共闘・1969＝69歳：学生による封鎖解除。美学会委員も辞める。**「FIAPより最高榮譽会員に推挙され、紫綬褒章受章。**
大阪万博・1970＝70歳：朝日新聞社より「写真芸術を語る」刊行。**「APA会長を退任し、名誉会長。写真学科主任を辞め名誉教授。**
ドルショック・1971＝71歳：勲三等瑞宝章受章。
日中国交回復1972＝**72歳**：日本写真学会名誉会員。日本大学芸術学部顧問。禁煙を再開。オーストラリア写真協会の招きで渡豪。第4回FAPA総会で香港訪問。渡辺義雄と**「日本大学にオリジナルプリント収集準備会を発足させ、{岩波写真文庫}の岩波映画製作所による近現代日本の写真記録、旧岩波コレクション(幕末明治期写真関係資料)をはじめとした、国内外の写真家たちの写真コレクションの基礎を築き、**

石油ショック1973＝73歳：新写真派協会有志とメキシコへ撮影旅行。
角栄金脈辞任1974＝74歳：**「嶺 金丸重嶺先生古稀記念』(金丸重嶺先生古稀記念出版事務局)刊行。**
田中角栄逮捕1976＝76歳：第5回FAPA総会のため訪台。全日本写真連盟創立50周年功労者表彰。**「ダゲール研究のための渡仏最後に、**
JALハイジャック・1977＝77歳：**「国立がんセンター入院、退院し、長年の功績により日本写真家協会賞を受賞するも、再入院し、没した。日本大学芸術学部葬。翌年、絶筆「SCOPE・あまりにもパーソナルな写真の素朴な性質」刊行。**